

授業改善のポイント

確かな学力の定着を目指した、より質の高い授業とするため、次の3つをどの教科にも共通する重点事項として、授業の改善・充実を図りましょう。

1 目標の明確化と学習課題の工夫

授業で学習課題を明示（板書等）していますか。

さらに、児童生徒の問いを生かした課題や、単元を通して追究する課題を設定するなど、教科や学習内容のねらいに応じて、学習課題を工夫していますか。

学習課題を明確にし、工夫していくことは、授業の目標を明確にすること及びその目標に即した学習活動を充実させていくことにつながります。

2 見通しと振り返りの活動の重視

◇ 見通しをもつ活動

学習課題は設定してあるものの、いつも教師からの指示や提示がなければ学習が進まない授業になっていませんか。

課題の解決に何が必要か、どう考えれば、あるいはどんな工夫をすればよさそうか、既習の事柄で役に立ちそうなことは何かなどを考え、学習の見通しを立てる活動を、単元あるいは単位時間の中で、計画的に位置付けましょう。

◇ 振り返りの活動

学習のまとめをさせるなど学習を振り返る活動を設定していますか。

さらに、板書やノートに書いたことを生かしたり、本時の思考過程（考えたこと）を整理したりするなど、効果的な振り返りの活動となるよう工夫していますか。

例えば、学習のまとめをノートに書かせることは取り入れやすい方法です。この際、書かせることは目的ではなく、振り返りをさせる手段であることに着目すると、工夫の幅も広がります。

3 主体的・協働的な学習活動の工夫

教科の特性や学習の内容に応じて、多様な学習活動を工夫していくことが重要ですが、その際、児童生徒が活発に、積極的に活動できるものに、ということだけで活動内容を決めていませんか。

特に、基本的な知識・技能を活用するような活動では、児童生徒が思考力・判断力・表現力等を発揮し、磨いていくための活動となっているか検討しましょう。各学校で充実に努めている言語活動も、この視点で検討することが重要です。

<効果的な学習方法や態度を身に付けさせる工夫>

上記の3つの重点に関する工夫が効果的なものとなるためには、ペアやグループでの話し合い活動の仕方や発表の仕方、ノートのまとめ方など、効果的な学習方法や望ましい態度を身に付けさせる、計画的・段階的な指導が基盤となります。

各教科での具体的な工夫等については「学びの羅針盤」をご覧ください。

🔍 学びの羅針盤

検索

